

倉本尚徳氏の発表論文に対する コメント

李 翎*

(中國 國家博物館)

倉本尚徳氏の論考「龍門北朝隋唐造像銘に見る浄土信仰の變容」は、龍門石窟造像銘文の用語の分析を通じて、佛教傳來初期より存在する道家神仙思想的性格を有する浄土信仰から、隋唐時代のより明確になった往生浄土思想への變化をもつら論じたものである。論文では大量の資料と目録を用い、各種用語の變化を論じ、生天、浄土信仰の相對的動向を把握している。これらの語彙の分析を通じて得られた筆者の結論は以下の通りである。すなわち、「天」に関する信仰は、北魏時代の河南及び陝西の造像銘が中心である。東魏・西魏以降では、「上生天上」等の語が激減した。「亡者生天」という言葉は、隋代まで多く用いられたが、北齊時代の河北地方において特に多く使用される。つまり、造像銘に限っていえば、天の思想・信仰に新たな展開はなく、淘汰されたといえる。このほか、天のイメージと關係して、上へのぼることを表す語句「上昇」、「上生」、「騰」、「飛」などは東魏・西魏以後、激減する。「登」「昇」等の語は、「常樂」「妙樂」と結合する事例がやや多くなり、北齊代に至り増加するが、隋代では全体的に減少する。その他、「境」、「三空」、「九空」等の語も時代がくだるにつれ減少する。「神」の使用例も同様に減少傾向を示す。一方、動詞の「往生」は増加し、北齊から隋にかけて「無量佛國」の使用が明らかに増加する。これらの結論はすべて非常に着實で有意義なものである。

とりわけ注目に値するのは、論文の第三節、すなわち善導浄土教の信奉者が龍門石窟の造營に關與したことを直接的に示す資料を新たに發見し提示していることである。1074窟の銘文と經文との比較對照を通じ、筆者が得た結論は以下の通りである。「この造像銘記は極めて貴重な資料であり、善導浄土教を信奉する禪師が龍門石窟の浄土造像に直接關與したこと

*國家博物館研究員。

を示し、なおかつ願文の形式によって自らの阿彌陀淨土信仰を表明している」。これはこのテーマの研究に対する本論文の貢献と言える。

問 題

1. 論文では収集した北朝から隋代に至る紀年銘中、あるものは「無量壽」と記し、あるものは「阿彌陀」と記すことに言及している。周知の通り、阿彌陀佛の意味は無量佛であり、その無量には二種の意味がある。一つは Amitābha、つまり無量光、もうひとつの意味は Amitāyus、つまり無量壽である。炳靈寺 169 窟の造像は無量壽を使用している。さらに早い譯經は無量光を使用している。玄奘の時になって、また無量壽を使用し始めている。藏傳佛教の供養體系においては、阿彌陀佛は分身して二となる。その一は無量光で、もう一つは無量壽であり、表現様式と供養體系がともに異なり、それぞれが代表する宗教的意義もまた區別される。本文中において、作者もこの種の名稱の變化に注意し、北齊時代の‘無量壽’から‘阿彌陀’へ到る尊像名稱の變化の原因の一つは僧稠－智舜等の禪觀實踐重視の僧侶達が太行山脈一帯において活動した結果であるとする。ただ、このような解釈では、この種の變化の宗教的意義が理解できないようにも思われる。論文では、「無量壽」から「阿彌陀」への變化がいったい淨土思想・信仰の變化といかなる関係を有しているかについては前稿において検討した、と述べているが、一般の學者は前稿を見るすべがない。この問題は本文と直接に關係しており、この種の名稱の變化がいかなる宗教的意義を有しているか、なにを明らかにしているかについて説明を御願いたい。
2. 論文は北朝から隋唐淨土信仰に関する用語の變化を議論している。これは有効な研究方法の一つである。この方法による研究の目的は、淨土信仰が異なる時代において映し出す信仰心理及び佛教文化の不斷の深化にある。本文の作者も「唐代佛教徒の死後の理想世界に對する淨土の理解は、確かに北魏よりも深いといえる。……つまり、龍門石窟の變化もまさしく北朝以來の淨土信仰が日増しに盛んになる状況を反

映している」という。このような説明自體には問題はないが、簡略すぎるきらいがある。筆者がさきに示した作業量の多さに比べやや惜しまれるところである。これは佛教の中國本土化及び深化の問題にかかわる。筆者により詳しい説明をいただきたい。

このほか、論文中で重要な参照価値があるとした學者李姪恩氏の論文の引用は、非常に適切である。ただし文中では李姪恩を中國の學者としているが、李は韓國の學者である。彼女は1999年前後に中國に留學し修士・博士課程に進學した。修士課程では、鄭州大學の前龍門石窟研究所所長溫玉成教授に指導を仰いだ。本文で引用する論文「龍門石窟唐代阿彌陀佛造像研究」はまさにその修士學位論文である。その後、博士課程では、中國社会科學院の徐萍芳教授に師事した。現在は韓國國立中央博物館に勤務している。

(翻譯担当：倉本尚徳)